

都道府県名	山形県
-------	-----

学校の概要

学校名	村山市立楯岡中学校					
学 年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	4	4	4	2	14	29
生徒数	134	126	160	3	423	

研究の概要

1. 研究主題

自分を知り、意欲を持って学び続ける生徒の育成

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

- ・全学年必修教科
教科指導でつけていく「基礎的な学力」が「問題解決力」の土台であるという考えから、「確かな学力」の向上のために「指導と評価の一体化」をキーワードに「わかる授業、力のつく授業の創造」を目指し、教科指導力をつけるため)
- ・2.3年英語, 1.2年数学
生徒の習熟度に差が出やすく、習熟度別少人数で個に応じた指導をすることによって学習効果と学習意欲が上がることを期待されるため
- ・全学年選択教科
選択教科を生徒の個性や必要感に応じた学習の場とし、自己の興味・関心、疑問やつまずきを追求し、教科の知識や技能を高めようとする意欲を育て「補充・発展的な学力」の向上を図るため
- ・全学年総合的な学習の時間
テーマに基づいて各自の課題を追求し、課題解決力、情報活用力、人間関係力を育て、「実践的な学力」の向上を図るため

(2) 年次ごとの計画

平成14年度	<p>テーマ 「確かな学力の向上に迫る指導体制づくりと指導方法の工夫」</p> <p>研究の見通し(仮説) 「教育課程の編成」「教科指導法」「総合的な学習の時間」「選択教科」「学習指導」「学習環境整備」の6つを有機的に結びつけた教育システムを構築することで、「確かな学力」の向上を達成することができるだろう。</p> <p>研究の内容・方法 【教科指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「指導と評価の一体化」をキーワードにした「わかる授業、力のつく授業の創造」を目指す。各教科の目標の吟味と、ねらいに沿った単元構成の工夫を中心として授業研究会を実施。単元の価値の分析と目標の絞り込み、単元構成の工夫を指導案に表現する。評価基準を指導改善に生かすものと考え、指導計画の中に評価基準Bと評価方法を明示する。
--------	---

	<ul style="list-style-type: none"> ・新指導要領に沿った年間指導計画の作成と改善。 ・数学・英語での習熟度別少人数指導，チームティーチング指導。 <p>【選択教科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個々の興味・関心を伸張し，教科のねらいや魅力に迫る「課題学習」と，生徒が各自の必要感や願いに応じてカリキュラムをつくる「補充・発展学習」の2つの選択学習を設定し，多くのコースを開設して選択幅の拡大を図る。 <p>【総合的な学習の時間】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校テーマ「ふるさと」を各学年の段階に応じた迫り方で追究し，3年間の内容の深化を目指す。各学年の学習の成果を「総合的な学習」発表会で地域に公開する。 <p>上記の学習を支えるものとして生徒自身の学習意欲の向上と学習習慣の形成を図る・選択教科と総合的な学習の時間の充実，少人数指導を効果的に行う教育課程編成を工夫する。</p>
--	--

平成15年度	<p>テーマ 「自己評価力を高め，学ぶ喜びを意欲につなげる」</p> <p>研究の見通し（仮説）</p> <p>教科の本質や価値（有用性）や魅力に触れさせる授業づくりを工夫したり，わかる喜び・上達する喜びを体感できる学習活動を設定したりすることによって，学ぶ意欲を高めることができるだろう。</p> <p>自己の到達度や課題を適切に評価する力を高めれば，目当てを持って学習しようとする意欲が高まるだろう。</p> <p>研究内容・方法</p> <p>【教科指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究テーマに迫るための各教科の重点を吟味し，評価基準を活用して生徒の姿を見取りながら指導を行う。 ・単元の評価基準を生徒に示して達成目標を持たせるなど，より高い目標への意欲付けを工夫する。 ・教科の面白さ・単元の魅力や価値の分析に基づいた単元構成や学習課題の設定，自己評価を生かす活動や手だてを研究する。 ・N R T・C R Tの分析，授業での自己評価・相互評価，単元テストや到達度テストの振り返り等によって，自己の到達度や学習の成果を確認させ，次の課題や目標を持たせる。 <p>【習熟度別指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数学・英語の習熟度別指導（1・2・3年数学，2・3年英語で2クラスを3クラスに編成して実施）で付けたい力・単元のねらいを吟味したカリキュラムを検討し，単元の特徴を生かした学習形態の工夫と改善を行う。 ・単元の学習形態を明記した年間指導計画を完成させる。 ・コースごとの適切な課題設定，評価規準（基準）と方法を吟味し，習熟度に応じた教材の開発と指導法の工夫を行う。 ・生徒の実態把握と適切なコース選択への指導，習熟度クラス内の力の差への配慮・支援を行う。 <p>【選択教科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「課題学習」（1年5教科，2・3年5教科と技能教科）では教科のねらいや魅力に迫る
--------	--

	<p>ための課題の吟味と教材の工夫を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「補充・発展学習」(2・3年5教科)では自分の力を客観的に評価し必要な学習について考える場を設定し、生徒の自己評価力を高めて指導に生かす工夫を行う。 ・生徒自身が適切な課題を設定できるように、課題づくりやコース選択の例を具体的に指導しながら生徒の願いを生かしたカリキュラムづくりを援助する。
--	---

平成 16 年度	<p>テーマ「必修教科・選択教科の指導法の充実」</p> <p>研究の見通し(仮説)</p> <p>必修教科・選択教科のねらいを吟味し、生徒に知的好奇心・有用感・達成感を感じさせる授業を積み重ねていけば、学ぶ意欲と「確かな学力」を向上させることができるだろう。</p> <p>研究の内容・方法</p> <p>【必修教科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の実態・変容を把握し、付けるべき力を再吟味して単元構成と支援を工夫する。 ・基礎的な知識・技能の定着を徹底させる指導方法の改善を行う。 <p>【選択教科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・補充的な学習が、個々のつまずきや必要感に合った方法で行えるように、多様な学習活動を工夫する。 ・発展的な学習では、生徒の興味と能力を伸ばし教科の魅力に迫れる課題設定や学習のあり方を工夫する。
----------------	--

(3) 研究推進体制

<p>フロンティア推進委員会 (各部の長)</p>	<p>教科指導部会(必修教科, 習熟度少人数, T・T)</p> <p>総合的な学習推進部会</p> <p>選択教科研究部会</p> <p>学習指導部会(学習指導, 教育環境, 教育評価)</p> <p>HP作成, 資料収集部会</p>
-------------------------------	--

平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究の成果

<ul style="list-style-type: none"> ・各教科で単元テストや自己評価を活用して達成状況と意欲を把握する工夫が行われている。 ・数学・英語では原学級での指導と習熟度別指導を計画的に行い、効果的な学習形態や教材の吟味を行っている。基礎コース・発展コースともに生徒の実態に応じて力を伸ばすための教材と指導方法の工夫ができた。教科内の打ち合わせが密になり、常に生徒の実態把握と付けたい力を意識して指導するようになった。 ・選択教科の運営方針が明確になり、「課題学習」では学習課題を吟味し、教科のねらいや魅力に迫るための学習を仕組んでいる。「補充・発展的学習」では、生徒が自分の必要感に基づいてカリキュラムを作り学習するシステムができ、自己分析のチェック表も改善を考えている。
--

2. 今後の課題

<ul style="list-style-type: none"> ・習熟度別指導で、教材・指導方法・目標と評価結果に関する横の交流を図り、より実態に合った学習活動を工夫していく。 ・学習意欲につながるような教材との出会いを工夫することも必要である。
--

- ・仲間との関わらせ方を工夫して多様な学習活動を仕組んでいく。
- ・自己評価や相互評価を活用しながら，生徒に自分の変化を実感させる具体的な手だてを工夫していく。
- ・意欲面の向上とともに，知識・技能・理解面の定着にさらに力を入れていく。

学力等把握のための学校としての取組

- (1) 定期的な学力調査の実施 (4 月 N R T , 2 月 C R T) と分析
- (2) 単元テスト，学期ごとの到達度テストの実施
- (3) 定期的な生徒・保護者の意識調査 (5 月 , 2 月) と変容の把握

フロンティスクールとしての研究成果の普及

- ・平成 1 4 年 1 1 月 2 1 日 学力向上フロンティア事業研究協議会
 テーマ「自分を知り，意欲を持って学び続ける生徒の育成」
 対象 地区内の小中学校
 内容 習熟度別少人数指導，補充・発展的選択教科の授業公開
- ・平成 1 5 年度 H P 作成
- ・平成 1 5 年 1 0 月 1 4 日 校内授業研究会公開
 テーマ「自分を知り，意欲を持って学び続ける生徒の育成」
 対象 地区内の小中学校
 内容 補充・発展的選択教科の授業公開
- ・平成 1 5 年 1 1 月 2 1 日 校内授業研究会公開
 テーマ「自分を知り，意欲を持って学び続ける生徒の育成」
 対象 県内のフロンティア指定校および地区内の小中学校
 内容 習熟度別少人数指導の授業公開
- ・平成 1 6 年 公開発表会 (予定)
 テーマ「自分を知り，意欲を持って学び続ける生徒の育成」
 対象 県内の小中学校
 内容 必修教科，英語・数学習熟度別少人数指導，選択教科の授業公開

次の項目ごとに，該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- | | | | | |
|----------------------|----------------|-------|--------------|---------|
| 【新規校・継続校】 | 1 5 年度からの新規校 | レ | 1 4 年度からの継続校 | |
| 【学校規模】 | 3 学級以下 | | 4 ~ 6 学級 | |
| | 7 ~ 9 学級 | | 1 0 ~ 1 2 学級 | |
| | レ 1 3 ~ 1 5 学級 | | 1 6 学級以上 | |
| 【指導体制】 | レ 少人数指導 | | T . T による指導 | |
| | その他 | | | |
| 【研究教科】 | レ 国語 | レ 社会 | レ 数学 | レ 理科 |
| | レ 外国語 | レ 音楽 | レ 美術 | レ 技術・家庭 |
| | レ 保健体育 | レ その他 | | |
| 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 | | レ 有 | 無 | |